

**議題(2)**

「家庭における育児力を高めるために必要な支援」について

**1 経緯**

昨年度の小牧市母子保健推進協議会において、母子保健を取り巻く現状として気になっていることとして、家庭における「育児力」について検討の必要性がだされた。そこで、家庭における育児力を高めるために必要な支援について現状を知り、今後必要と思われる取り組みについて検討していくこととなった。

**2 めざすもの****1) 現状の中での育児力低下に対する施策**

⇒支援を必要としている家族に対する関わり

**2) 育児力を持った家族とするための施策**

⇒育児力を持った親となるための支援

⇒親子によい影響を及ぼすことができる人達が一人でも多く存在する地域づくり

**3 確認事項****1) 支援が必要と思われる対象****●孤立している家庭**

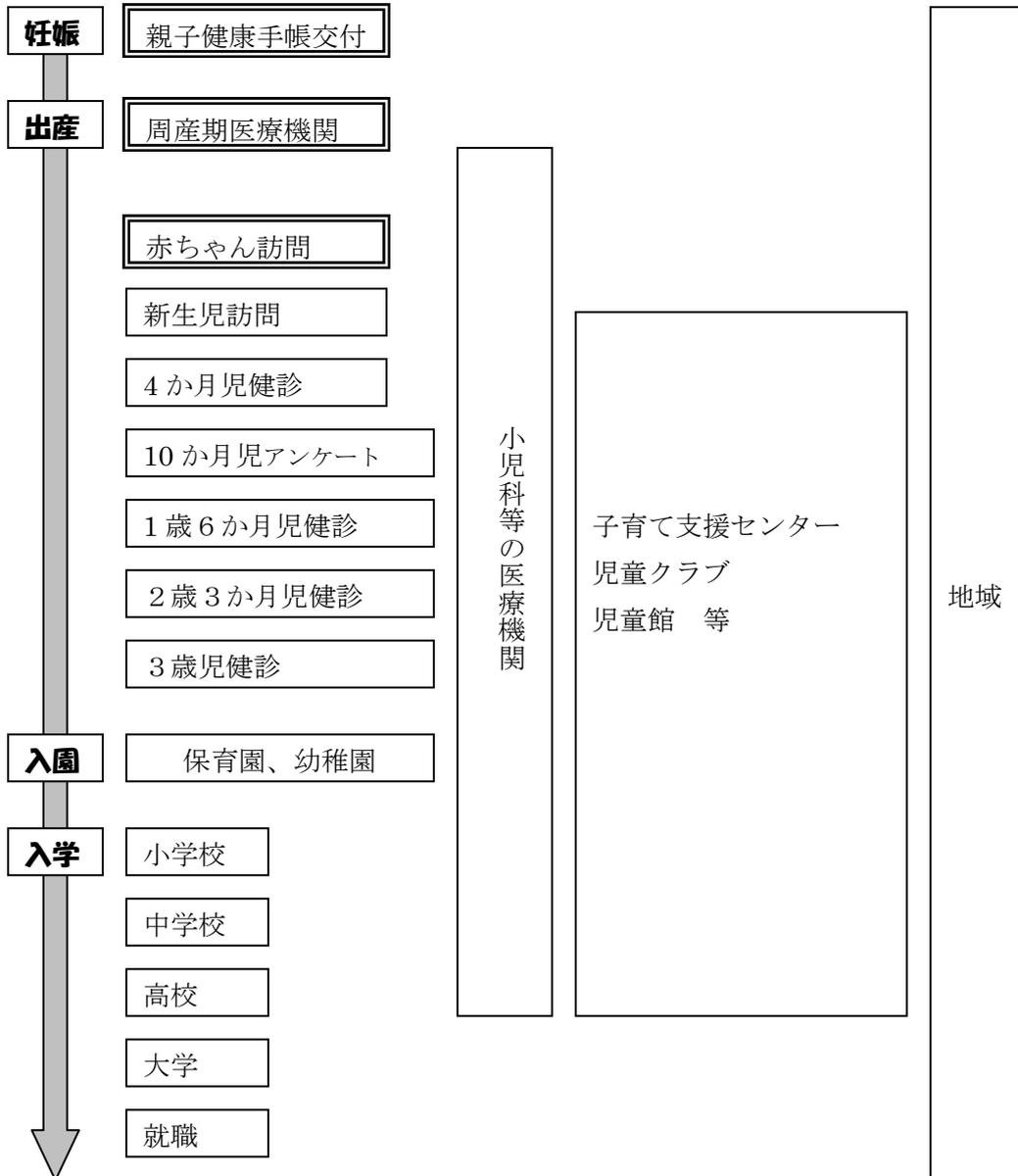
- ・夫婦以外の家族の支援がない家庭(祖父母や兄弟等)
- ・地域社会とのつながりが薄い家庭(近所や友人、関係機関等)
- ・必要な時に SOS が出せない家庭

**2) 育児力を持った家族の姿****●様々な支援が受けられる家庭**

- ・夫婦以外の家族の支援がある家庭(祖父母や兄弟等)
- ・地域社会とのつながりがある家庭(近所や友人、関係機関等)
- ・必要な時に SOS が出せる家庭

#### 4 必要な支援体制 ～今ある支援体制のなかで、効率的に支援につなげる方法の検討～

##### 1) 現在の支援体制の流れ



##### 2) 見えてきた問題点

① 支援が必要と考えられるケースの中には、SOSをうまく出せず、支援につながりにくいケースがある。

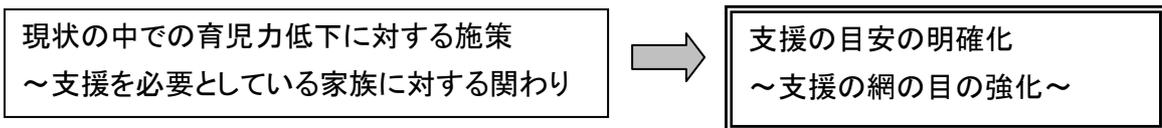
⇒ 支援の目安の明確化 ～支援の網の目の強化～

② 妊娠、出産、育児には、様々な関係機関が親子に関わり支援している。すべての関係機関が同じ目線で親子と関わり、支援がつながっていけるシステムがあるとよい。

⇒ 支援システムの明確化 ～SOSを出しやすい環境づくり～

3) 今後の取り組み⇒「支援の目安」や「支援システム」の明確化

①



ア) 親子健康手帳交付時アンケートの見直しに向けた検討

児童虐待やネグレクトを防止する効果的な方法として、親子健康手帳交付時のアンケートから効果的に支援の必要性のある親子を発見し、早期から親子間の相互作用を促進することができるのではないかと。

⇒現在の親子健康手帳交付時アンケート(別紙1)から、どのような改善が必要か。

<参考> ケンプアセスメントについて(参考資料1)

プレネイタルビジットについて(参考資料2)

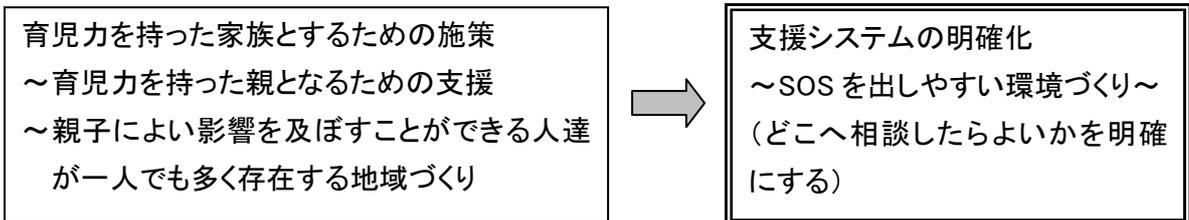
イ) 赤ちゃん訪問の充実(赤ちゃん訪問時の質問紙導入)に向けた検討

現在赤ちゃん訪問では、「保健連絡員の存在を伝えること」を第一の目的としているが、その方法は赤ちゃん訪問を実施する保健連絡員やOB一人ひとりに任せている。ある一定の質を保つために、出産後の育児状況を確認し必要な育児支援につなげるために、産後うつに着目した質問紙等を導入してはどうか。

⇒現在の赤ちゃん訪問(別紙2)にどのような導入が可能か。

<参考> 奈良県子ども家庭局子ども家庭課ホームページ(参考資料3)

②



ア) 連絡カード(ハローファミリーカード)の導入に向けた検討

⇒どのようなシステムで導入が可能か

\* ハローファミリーカード(タテ 5.5cm×ヨコ9cm)とは・・・  
「対象者(相談者)の住む地域の保健センターの電話番号を掲載した連絡カード」を作成して、周産期の医療機関等に設置し、対象者に配布することで、医療と保健の現場スタッフが協働して子育て支援に取り組み育児不安の軽減や虐待予防を目指している。このプロジェクトは、愛知小児保健医療総合センターが中心となって、衣浦東部保健所管内・西尾保健所管内・豊川保健所管内・岡崎市・一宮保健所管内・豊橋市・新城保健所管内の周産期医療機関や助産施設や小児科を巻き込んで実施しており、現在効果が検証されている。

<表>



<裏>



イ) 赤ちゃん訪問の充実(赤ちゃん訪問時の質問紙導入)に向けた検討(内容は同上)

<検討事項>

今後の取り組みについて、具体的な方法の検討やその他必要な取り組みについて、ご意見を  
お願いいたします。